

巻頭言「太平洋地域主義の行方」

昨年9月、PNGの首都ポートモレスビーで太平洋諸島フォーラム(PIF)の第48回年次総会が開催された。「第7回太平洋・島サミット」から4カ月後に実施されるこの首脳会議がどのように推移するのか、私にはいつも以上の関心事であった。それは、この会議が今後のPIFに重大な変化をもたらす節目になる可能性を感じたからだ。

私がそう思った理由は二つある。その一つは、フィジーのPIF復帰問題である。2014年のPIF総会で、フィジーの復帰は認められていたが、島サミットで首脳宣言を作成する際に、バイニマラマ首相はぎりぎりまで「PIF諸国」としてフィジーを一括表記されることに抵抗し、豪州、NZが脱会しないかぎり、PIFへの復帰はないと主張し続けていたからだ。二つ目は、地域主義への反発。このところ豪州、NZのイニシアチブで進める「地域主義」に対する島嶼諸国の反発を議長国のPNGが如何に治めるのか、注目するところだった。しかし終わってみれば、私の予想は何んらの中せず、目立った対立的議論もないままに、従来の流れに沿った平穏な会議として終わったのである。

議長となったPNG首相のオニールは、「共有資源である漁業」、「気候変動」、「情報・通信技術」、「虐待等の人権侵害」、「蔓延する子宮頸がん」の5つを挙げ、これらの解決が地域共通の最重要課題であると会議冒頭で演説し、これら認識の共有が「我々が目指す地域主義に繋がると」謳い上げた。豪・NZが進めたがっているガバナンスの共通ルール作りやフィジーが主張していたPIF加盟国の見直し、さらには域内の移民・難民、民族紛争、開発規制等々の政治問題に繋がりそうなテーマは、いずれも避けられていた。そしてこの5項そのものが、各国リーダーも納得する共同声明となったのである。

PNGは本来、1988年にメラネシア・スピアヘッドグループ(MSG)を立ち上げたことに見られるように、PIFを中心とした地域主義や豪州の島嶼国関与強化に不快感を露わにする急先鋒だった。そして国家規模や将来の開発潜在力を考えればASEANに接近すべきだと考えていた。PIF活動に力が入らなかったのはそのためだ。ところが、ここ数年は対PIF姿勢を一変させている。それはなぜか？ 保有鉱物資源の開発で実現した急激な国家収入の増大、そして2009年のフィジーのPIF資格停止処分がきっかけになった、と私は思っている。

PNGは、フィジーが居ない間に大国としての存在感

を示し、域内のリーダーシップを一気に掌握したいと考えたのだろう。PIF活動に後ろ向きだったのに、一転して自国人のメグ・テイラーを事務総長に送り込んだ理由もここにある。対立問題を避けたテーマで地域主義を唱えたオニール首相の演説も、こうした流れの一環として捉えることができる。

一方でフィジーは、クンプアンボラ外相を政府代表として首脳会議に参加させた。これで、「豪州、NZが脱会しないかぎり、私は首脳会議には出席しない」と言ったバイニマラマ首相の公約は守られたとするのだろう。だが、外相を派遣したのだから、フィジーが即座にPIFから完全撤退する気はないと見るべきだ。あれだけ明快に国家改革を主張し、周辺国の非難を受けながらも軍事クーデタを経て民主政権の樹立を成し遂げた信念の人バイニマラマだったから、PIF問題についてもはっきり白黒を付けるのかと思ったが、その結果はやはり玉虫色だった。

このように、内包する諸問題を厳密に煮詰める議論をしないまま、淡々と現実を進めていく島嶼国リーダーたちをみると、これは政治に対する疎さではなく、むしろ政治的な強かさだと見るべきなのだろう。こんな対処法こそが、これまで幾たびも周辺大国を翻弄してきた太平洋流なのかもしれない。

しかしだからといって、この地域に実在する諸問題が解決に向かっていくわけではない。PIF会合の直前に、豪、NZを除外した新たな地域統合を目指してフィジー主導で立ち上げた太平洋開発フォーラム(PIDF)の第3回総会も盛大に行われたし、MSGも健在、漁場提供諸国で組織するナウル・グループ(PNA:Parties to the Nauru Agreement)やミクロネシア3国サミット(Micronesia President's Summit)等々のサブリージョナルな組織体の動きもますます活発化しているからだ。さらに、地球環境、小国家開発等の問題で域外諸国との協力活動の輪も広がっている。これらに、域外諸国がそれぞれの思惑で関係してきているから、島嶼諸国をめぐる国際関係はかつて無いほどに重層的になり、PIFへの求心力はむしろ薄れてきたと思えるのだ。

こうした直近事情を知るほどに、「太平洋島嶼諸国」という一括概念が、もはや実態と全く離れた認識であることを、あらためて感じるのである。

(小林 泉)